# 施設案内

特別養護老人ホームけやき荘
ショートステイセンターけやき荘
デイサービスセンターけやき荘
居宅介護支援センターけやき荘

*Life is Beautiful*

heart & community & unity

# KEYAKISO

けやき荘 ――ライフ イズ ビューティフル

**「楽しくなければ施設じゃない」**
**スタッフ130名が皆様の**
**お手伝いをさせていただきます**

**Site & Floor Area（建築規模）**

敷地面積／13,000平米
延べ床面積／8,600平米

**Capacity（定員）**

特別養護老人ホーム…… 200名
ショートステイセンター …… 20名
デイサービスセンター …… 28名


けやき荘

〒221-0864 神奈川県横浜市神奈川区菅田町1-1

**[特別養護老人ホームけやき荘]**
TEL.045-470-3900
URL https://keyakisou.jp

**[ショートステイセンターけやき荘]**
TEL.045-470-3900

**[デイサービスセンターけやき荘]**
TEL.045-473-4888

**[居宅介護支援センターけやき荘]**
TEL.045-620-7782

**[社会福祉法人 孝楽会]**
TEL.045-620-0068
URL https://kourakukai.com
Email info@kourakukai.com


**見学ご希望は、随時受付けております**



ライフ イズ ビューティフル

# *Life is Beautiful*

heart & community & unity

## 人々の支えになりたい

それは、創立2001年から変わることのない、
私たちの大切な願いです。
時代とともに暮らしのかたちは移り変わっても、
「幸せに生きていただきたい」「豊かな人生をお過ごしいただきたい」
という思いは、いつの世も変わりません。
私たちは、その思いを胸に、皆さまのお役に立てる
施設づくりを心がけてまいりました。
けやき荘を終の住処としてお過ごしいただいている利用者様にとって、
日々が健やかで、穏やかで、心安らぐひとときとなりますように。
その時間が、かけがえのない「幸せな時間」として心に残るよう、
これからも、ひとつひとつの出会いを大切に、
真心を込めて努めてまいります。

社会福祉法人 孝楽会
理事長 松田 雍晴

# 施設紹介

シンボルツリーの欅（けやき）から施設へと続くアプローチには、
季節になるとハナミズキがやさしく咲き誇り、来所される人々の心を和ませながら
あたたかな気配で包み込んでくれます。自然の彩りも、
ここを訪れるすべての方に穏やかなひとときを届けてくれます。
高台ならではの開放感と豊かな緑に包まれた静寂の中で、利用者様が穏やかに、健やかに、
日々を過ごしていただけるよう、私たちは心を込めてお手伝いしております。
この場所が一日をやさしく包み込む、安堵の時になりますように、日々の暮らしを支えております。





けやきっさ



ロビー





居室は中庭からの明るい光が差し込む、ナチュラルで落ち着いた雰囲気のインテリアで統一されています。写真は個室▶





*Life is Beautiful*
KEYAKISO
けやき荘 ――ライフ イズ ビューティフル

## 1 特別養護老人ホーム けやき荘

原 則「要介護度3」以上の認定を受けられた方で、在宅での介護が困難な方の生活の場です。身体的・精神的な支援を必要とされている方々に対し、24時間体制での介護・生活支援を提供し、個々の尊厳を守りながら、穏やかで心安らぐ時間を育んでまいります。

## 2 ショートステイセンター けやき荘

要 支援以上の介護認定を受けられた方が短期間ご入所されて、生活全般の介護や機能訓練などを受けていただけます。
介護者様が病気や冠婚葬祭、急用、旅行などで介護ができない場合に短期間でもご利用いただけるサービスです。

## 3 デイサービスセンターけやき荘

介 護度1～5の方にご利用いただける併設のデイサービス。地域の居宅介護生活支援の一役を担います。要介護状態になっても自宅で自立した生活を送っていただけるように身体機能の維持や向上を目的とした機能訓練、食事や入浴、排せつ等日常生活上の援助をします。スタッフや他の利用者様と関わることで、社会的孤立感の解消やご家族の介護による身体的、精神的負担の軽減を図ってまいります。

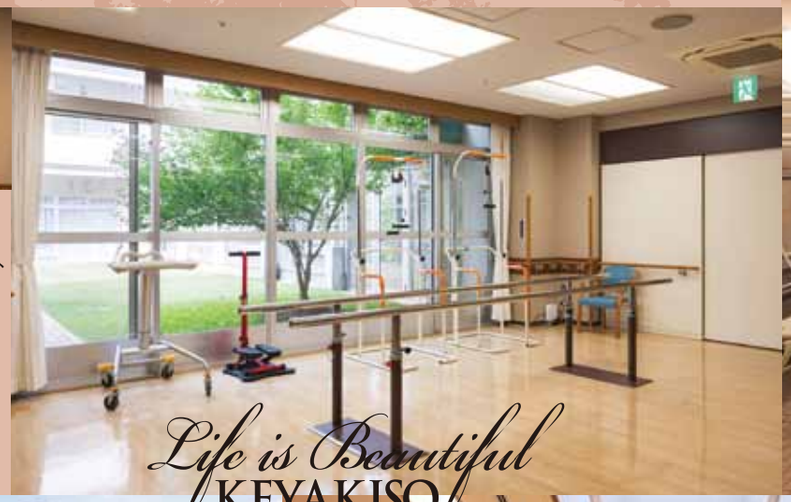
## 4 居宅介護支援センターけやき荘

介 護が必要な方が適切な介護サービスをご利用いただけるよう専門的な知識を持つ介護支援専門員が在籍。デイサービスやショートステイ等の介護サービスの利用に必要なケアプラン（介護サービス計画）を作成しご自宅で安心して生活がおくれるようご本人やご家族と相談しながらサポートさせていただきます。要介護認定の申請等、介護保険に関する手続き代行も致しております。



**身体機能訓練設備**

身体機能の低下を予防したり、自分でできることを長く続けられるように生活の質の向上を目指します。機能訓練室だけでなく併設の廊下や庭の散歩などが歩行訓練にも役立ちます。



*Life is Beautiful*
KEYAKISO
けやき荘 ――ライフ イズ ビューティフル







**入浴設備**

ご自宅で入浴困難な方にも、ゆっくりご入浴できるように座ったまま入れる浴槽や機械浴もご用意しています。薬草風呂やゆず湯なども季節に合わせて楽しんでいただいています。








**農園** 自然に身を置いたり土を触ることは健康にとても良いことです。野菜の収穫を喜んだり、季節の花を愛でる気持ちを大事にしたいです。コスモス畑は近隣の皆様にも喜んでいただいています。



▲けやきドームは、利用者様のイベントやクラブ活動、周辺地域の皆様には謝恩会・コーラス活動等に使っていただけます。

万全な生活支援サービスと設備を整えています。
それは、利用者様が笑顔になっていただく環境です。





食事時には入居者様で賑わう食堂。食後はゆっくりテレビを観たり、会話がはずみます。▶



◀けやきっさは、利用者様の面会や誕生日会、ご家族様の小さな集まりにご利用いただけます。カフェは緑に囲まれた安らぎの空間。施設内中庭の景色には季節の移ろいを感じます。





▲ピンク美容室、介護美容のメリットはメンタル面・身体面・社交的交流面の3つがあります。心理的効果がある介護美容は見た目がきれいになるだけでなく、前向きな気持ちになることが特徴です。ピンクに彩られた素敵な空間で、着たい服やアクセサリーを選び、美容部員の職員にきれいにお化粧してもらうと、みなさん自然と笑顔があふれ、生き生きした表情へと変わっていきます。

**●健康管理・医療体制**

身体機能の低下を予防したり、今できること、自分で行いたいことを長く続けられるように生活の質の向上を目指します。嘱託医は週2回、精神科医・皮膚科医が月2回往診に来ています。入院が必要な場合は協力機関へ紹介します。

**●看取りケア**

最後の時まで、慣れ親しんだけやき荘の中で過ごしていただけます。ご家族の宿泊スペースもご用意しています。

**●趣味活動・レクリエーション**

日常生活を楽しく豊かにすごしていただけるように、折り紙や習字クラスなど、毎年工夫して開催しています。

**●年間イベント**

| | |
|---|---|
| 1月 | 新年行事 |
| 2月 | 節分 |
| 3月 | ひなまつり |
| 4月 | お花見ドライブ |
| 5月 | けやき祭り |
| 6月 | あじさい見学 |
| 7月 | 七夕 |
| 8月 | 夏祭り |
| 9月 | 敬老祝賀会 |
| 10月 | けやきフェスティバル |
| 11月 | 運動会 |
| 12月 | クリスマス |



Life is Beautiful
KEYAKISO
けやき荘 ――ライフ イズ ビューティフル

## 介護は“愛”を作る職人

施設長 H.Oさん
（職歴25年）

高校卒業後、新潟を離れて東京へ。介護の専門学校を卒業し、けやき荘に入職してから、気づけば25年が経ちました。ここまで続けてこられたのは、理事長をはじめ、先輩方やスタッフの皆さんの〝愛〟のおかげです。

もちろん色々なことがありました。リーマンショックの頃には退職者が相次ぎ、私にかけられる職責が重くなりました。そんな時、一般職の友人たちとの食事会がありました。職種の違う友人たちの話を聞くうちに、次第に自分の仕事への考え方が変わってきたのです。当たり前にやっていた介護なのですが、介護従事者はある意味〝職人〟なのではないかと。お年寄りの身体に触れ、温もりを感じながら、心地よさを手が覚えていく…とても繊細な感覚です。「ありがとう」と言っていただける瞬間、言葉がなくても伝わる表情に、互いの思いを実感できます。

220床を有するこの施設では、チームの力で利用者様を支えています。スタッフの経験を生かし、成長できる体制づくりにも力を入れています。未熟だった私を温かく受け入れ、育ててくださった前会長や理事長、先輩方への感謝を胸に、今度は私が皆を見守りながら、利用者様のお世話をしなければと。そういうことが少しわかり始めて、そのことを幸せだなと感じている今日この頃です。










## 介護のスペシャリストたち

# Staff Interview

### 現場インタビュー

私たちは、地域に根ざした施設として、
利用者様一人ひとりの人生に寄り添い、
「その人らしさ」を大切にしたケアを
心がけています。
医療・福祉の専門職が連携し、
安心・安全な環境を整えるとともに、
ご家族や地域とのつながりも支えます。




## 1日1回、笑ってもらいたい

看護師 H.Kさん
（職歴15年）

私の頭の中には、200人の利用者様のお顔がしっかりインプットされています。朝「○○さん、おはよう！」と声をかけたとき、笑顔がなければ「どうしたの？」と手を握ります。それだけでも、わかることがたくさんあるからです。いつもと違う小さな異変。特に高齢者の多くは持病を抱えておられますし、ご本人が症状に気づかなかったり、うまく伝えられないことも少なくありません。だからこそ、私たちがいち早くいつもと違うことに気づき、早期に対応することが大切なのです。

現在の私の仕事は、利用者様の「健康管理」がメインの仕事です。健康管理の基本は、病気の把握はもちろんのこと、その方の行動や性格まで詳しく知ることです。メンタル面も含めての健康管理ですから、私は「一日一回は笑ってもらうこと」を心がけています。笑顔になっていただけるタイミングやきっかけは人それぞれなので、あの手この手を考えます。時には道化師になることも（笑）。ご本人がけやき荘で心地よく生活できるように精いっぱい尽くしたいと思っていますが、思い込みや押しつけのケアは避けなければなりません。たとえば私が良かれと思って何かをやって差し上げても、ご本人にとっては望まないことかもしれません。その見極めは、やはり日頃どれだけその人を理解しているかにかかっていると思うのです。利用者様がよく「ごめんなさいね」「すみません」とおっしゃってくれますが、そんな言葉は私には無用なんです。だって私もいずれ歳をとって誰かのお世話になるのですから。それより「ありがとう」と言ってもらう方が嬉しいかな。最後に「いい人生だった」と思っていただけるように頑張ります。私自身もそう思える人生を歩みたいと願っています。

## 日々勉強、そして成長を感じる場所

介護士 N.Iさん
（職歴2年半）

3年前に転職し、この仕事についているのでまだまだ経験は浅いのですが、ストレスなく働いています。それは、先輩スタッフによる技術面でのサポートや、メンタル面での優しい支えに加え、働く体制がしっかり整っていることが大きいと感じています。

以前、男性の利用者様の介助拒否が少し見られたり、感情をぶつけられることもありました。でも、皆さんそれぞれに理由があるのです。その人の環境的背景や抱えている病状を知ることで、感情表現や行動の意味が理解できるようになり、少しずつ個々への対応力が身についてきました。感情を表してくださることは、ある意味、信頼の証なのだとも思います。そんな場面では、前職の保育士時代に子どもの心の甘えや要求を受け止めていた経験が活きています。

ここの利用者様たちは、人生の大先輩です。接するたびに、かつての仕事の話、思い出話、当時流行った歌など、さまざまなお話を聞かせてくださいます。私のような若輩者が、日常生活ではなかなか得られない貴重な学びの機会です。

先日は、保育士時代に培ったピアノの腕を皆様の前で披露する機会をいただきました。懐かしい曲を選びながら、利用者様と楽しい時間を過ごすことができました。職員と利用者様をつなぐイベントも年間を通して開催されており、そのたびに皆さんの笑顔を見ることができます。そんな時、自分まで嬉しくなります。ここで介護士として誇りを持って働いています。転職を考えている友人がいれば、自信を持っておすすめしたい施設です。この場所は、私を大きく成長させてくれています。
















## 生ききるって素晴らしいこと

介護福祉士 K.Mさん
（職歴10年）

30代後半に差し掛かった頃、一念発起して職業訓練校に通い、国家資格を取得しました。高齢者というのは、私にとって特別な存在ではありませんでした。小さい頃から祖父母が身近にいて、人が歳を重ねていくことを、当たり前に受け止めていたのです。

介護福祉士という仕事は、通常の生活が難しくなった人に寄り添い、食事、歩行、排せつなど、健康に配慮しながら支える仕事です。人間が当たり前にできていたことが不自由になったときに、そっと手を差し伸べる。ただそれだけのことなのですが、「どうしてほしいのか」をうまく汲み取れないこともあります。言葉や表面的な反応だけでは、十分なケアができないことも多いのです。たとえば、こちらが「良かれ」と思ってしたことが、介護される方にとっては不快だったりすることもあります。そんな時は、怒られることもあります。「あ、ごめんなさいね。嫌だったのね。これから気をつけるねぇ」と、素直に謝ります。何が正解なのか…日々寄り添いながら探っています。

一方、生きることのすごさを見せていただく瞬間もたくさんあります。医療の限界を超えて、ご本人の生命力が奇跡を起こすこともあるのです。「生きる」ということの素晴らしさを、何度も目の当たりにしてきました。そんな瞬間に立ち会わせていただけることは、本当にありがたいことだと思っています。最近は体力の衰えを感じることがあるのですが、そんな時は、誰かに「ちょっと助けて」と声をかけます。すると、必ず誰かが支えてくれる。ここは、そんな仲間たちがいる施設だと思っています。